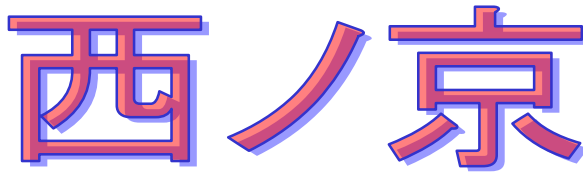


学校教育目標
心豊かで しなやかに
生きる力 を育成する



京都市立西ノ京中学校
学校だより ⑥
令和2(2020)年9月30日
校長 内田 隆寿

学校改善に向けた保護者アンケート

～ ご協力ありがとうございました ～

02年度前期 保護者アンケート 前年度比較

2020(令和2)年7月実施 回収数 183枚
2019(令和1)年6月実施 回収数 126枚

	質問項目	A+B		A そう思う		B 大体そう思う		C あまりそう思わない		D そう思わない	
		02前期	01前期	02前期	01前期	02前期	01前期	02前期	01前期	02前期	01前期
学校生活・学習面	子どもは安心して楽しく学校に通っている。	93.4%	98.4%	45.3%	61.6%	48.1%	36.8%	5.0%	1.6%	1.7%	0.0%
	子どもは学校の授業を「わかる」と言っている。	80.0%	85.6%	25.6%	23.2%	54.4%	62.4%	16.7%	14.4%	3.3%	0.0%
	子どもには基礎的基本的な知識や技能、学力がついてきていると思う。	78.3%	80.9%	20.6%	23.8%	57.8%	57.1%	16.1%	17.5%	5.6%	1.6%
	子どもは校則やきまりを守っている。	97.2%	97.6%	66.3%	47.6%	30.9%	50.0%	2.8%	2.4%	0.0%	0.0%
	子どもは部活動に楽しく熱心に参加している。	91.0%	91.0%	53.4%	52.5%	37.6%	38.5%	4.5%	5.7%	4.5%	3.3%
	子どもには困ったことや悩みを相談できる友人がいる。	83.5%	86.2%	35.2%	30.6%	48.4%	55.6%	13.7%	12.1%	2.7%	1.6%
	子どもは家で予習や復習、宿題等の勉強ができています。	74.7%	65.9%	23.1%	27.0%	51.6%	38.9%	20.9%	30.2%	4.4%	4.0%
	子どものことについて、先生と気軽に相談できる。	73.3%	80.1%	21.1%	20.6%	52.2%	59.5%	21.1%	17.5%	5.6%	2.4%
	学校の様子、学級・学年・学校だよりやホームページなどでよく分かる。	86.7%	93.6%	21.5%	34.1%	65.2%	59.5%	12.7%	4.8%	0.6%	1.6%
	校舎・教室は整理整頓され、掲示物等は分かりやすく配置されている。	93.1%	93.6%	21.8%	35.2%	71.3%	58.4%	6.9%	5.6%	0.0%	0.8%
	学校は一人ひとりを大切にしたい教育活動をすすめている。	86.0%	88.8%	16.9%	18.4%	69.1%	70.4%	12.9%	9.6%	1.1%	1.6%
	西ノ京中学校の教育活動に満足している。	89.3%	92.8%	20.3%	20.0%	68.9%	72.8%	9.6%	5.6%	1.1%	1.6%
家庭生活・家庭の役割	子どもは「早寝・早起き」を心がけている。	62.6%	70.4%	20.3%	24.0%	42.3%	46.4%	27.5%	25.6%	9.9%	4.0%
	子どもは朝ごはんを毎日きちんと食べている。	89.0%	95.3%	62.1%	65.1%	26.9%	30.2%	7.1%	4.0%	3.8%	0.8%
	子どもに家族の一員として、役割と責任を持たせるようにしている。	81.9%	78.5%	26.9%	31.7%	54.9%	46.8%	17.0%	17.5%	1.1%	4.0%
	子どもに規範意識(マナー・モラル等)について教えている。	98.4%	98.4%	41.8%	41.3%	56.6%	57.1%	1.6%	1.6%	0.0%	0.0%
	子どもは家庭での読書習慣がついている。	31.9%	29.3%	11.5%	10.3%	20.3%	19.0%	42.9%	38.1%	25.3%	32.5%
	子どもは自らすすんで「おはよう」「ただいま」などの挨拶ができています。	82.4%	84.1%	40.7%	44.4%	41.8%	39.7%	14.8%	11.9%	2.7%	4.0%
	子どもは配布物を必ず見せ、学校のことをよく話してくれる。	77.1%	73.0%	26.3%	31.7%	50.8%	41.3%	19.0%	24.6%	3.9%	2.4%
	授業参観や学校行事などに、できるだけ参加している。	76.5%	77.4%	15.9%	23.4%	60.6%	54.0%	19.4%	20.2%	4.1%	2.4%
	PTA活動には、できるだけ参加したいと思っている。	53.7%	45.9%	7.3%	4.0%	46.3%	41.9%	35.0%	48.4%	11.3%	5.6%
	塾や習い事以外に夜間の外出はさせていない。	96.7%	95.2%	72.8%	65.6%	23.9%	29.6%	2.2%	4.0%	1.1%	0.8%
	ケータイ・スマホ・メールなどの使用ルールを決めている。	76.8%	80.0%	29.4%	35.2%	47.5%	44.8%	19.2%	16.0%	4.0%	4.0%
	子どもと将来の夢や生き方について、できるだけ対話している。	76.1%	72.2%	28.3%	24.6%	47.8%	47.6%	21.1%	25.4%	2.8%	2.4%
感染防止対策の習慣	子どもは朝夕の検温など健康観察をしっかり行っている。	91.7%		42.2%		49.4%		6.1%		2.2%	
	子どもはマスクの着用をしっかり行っている。	99.4%		78.3%		21.1%		0.6%		0.0%	
	子どもは手洗いをこまめに行っている。	95.0%		55.0%		40.0%		4.4%		0.6%	
	子どもはいつもハンカチを携帯している。	85.6%		50.6%		35.0%		12.8%		1.7%	
	子どもはソーシャルディスタンスを心がけている。	77.8%		28.9%		48.9%		21.7%		0.6%	
4月～6月の取組	臨時休業期間中の家庭学習課題の内容や量は適切であった。	77.2%		18.3%		58.9%		20.6%		2.2%	
	臨時休業期間中の連絡や情報提供(電話・ホームページ・配布物等)は適切であった。	87.8%		18.3%		69.4%		11.1%		1.1%	
	学校再開に向けたステップ期間(段階的に通常に戻す登校)の設定は適切であった。	86.1%		16.7%		69.4%		13.3%		0.6%	
	学校再開後の健康・安全面への配慮は適切に行われている。	96.1%		20.8%		75.3%		3.4%		0.6%	
	学校再開後の教育課程(学習活動など)は適切に行われている。	93.8%		18.1%		75.7%		5.1%		1.1%	

多重回答や無回答、四捨五入処理のため、合計は100%にならない場合があります。

7月末に実施した保護者アンケートの結果をお伝えします。今回のアンケートは、このコロナ禍で家庭訪問や授業参観などの行事が中止となり、学校の様子などを知っていただく機会がホームページや学年・学級だよりなどに限られた中での実施でしたが、このような状況だからこそ、例年と違う変化があればそれを捉え、今後に生かすために、例年より少し時期を遅らせ実施したところ、回収数は昨年同期の約1.5倍と増加しました。これは、単に時期を遅らせたことが功を奏したわけではなく、この特別な状況についてアンケートを通じて伝えようとしてくださった保護者の皆さんの意識の表れだと考えています。

そのような状況から、アンケート集計では例年より低い数値になるだろうと予想していましたが、学校生活全般における結果としては、予想通り昨年同期と比べて若干低くはなったものの、それでも比較的高い評価をいただきました。アンケートにお答えいただいた方は「子どもたちは、校則やきまりを守り、おおむね安心して学校に通っている」とお考えいただいているようです。それでは、そのような中でも特徴的なこと、気になることをあげていきたいと思います。



「子どもは安心して楽しく学校に通っている」の項目について、昨年同期は6割以上の方が「Aそう思う」と答えていただいているのですが、今回はこの数値が15ポイント以上大きく下がりました。やはりコロナの影響から、子どもたちは少なからずこの状況に不安を感じているのではないかと考えておられる保護者の皆さんの心配が感じ取れます。おそらく、家庭での会話などで子どもたちがつぶやいているのでしょう。この状況はしばらく続くと思いますが、ウイルスの正体の科学的な解明が進み、ワクチンや治療薬が開発されれば、徐々に戻ってくるのではないかと考えています。学校としては、そのような期待を持ちつつ、今後も感染防止対策に取り組み、少しでも安心できる環境を整えたいと思います。

また、「子どもには基礎的基本的な知識や技能、学力がついてきていると思う」「子どものことについて、先生と気軽に相談できる」の項目は、ともに8割を切りました。これは、6月までの臨時休業が大きく影響しています。この期間中、生徒にとって一番大切な授業はなく、保護者の皆さんと新しい担任とが顔を合わせて言葉を交わす機会も設けられませんでした。さらに、「学校の様子が、学級・学年・学校だよりやホームページなどでよくわかる」の項目について「Aそう思う」が減り、「Cあまりそう思わない」が増えたように、学校からの情報提供にも限界がありました。あらためて、学校の本分である「授業」と「コミュニケーション」の重要性を再認識いたしました。



しかし、このような中、「子どもは家で予習や復習、宿題等の勉強ができています」の項目では、肯定的な回答が10ポイント近く増え、しかも、「B大体そう思う」は5割を超えました。臨時休業期間中に学校から配布される課題に取り組んできたことが、結果的には家庭学習の定着につながったかたちです。これに似たようなことは他にもあり、「子どもは家庭での読書習慣がついている」「子どもは配布物を必ず見せ、学校のことをよく話してくれる」「PTA活動には、できるだけ参加したいと思っている」の項目も若干ではありますが肯定的な回答が増えています。これらの項目は、以前から年々下がる傾向にあったものばかりですが、コロナ禍をきっかけに逆転現象が起っています。6月の学校再開の集会で生徒たちに伝えたことは、『コロナ禍による学校臨時休業というこれまでにない経験を通して「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」が確実に身につけてきているので、これからもそれを継続してほしい』『ソーシャルディスタンスの意識は持ちつつ、心の距離は離さず、コミュニケーションを大切にしてほしい』の二点でした。今後ともご家庭でもご指導いただくとともに、子どもを中心としたコミュニケーションの場としてのPTA活動にご参加ご協力いただけると幸いです。



今回のアンケートで新たに加えた「感染防止対策の習慣」と「4月～6月の取組」の項目では、おおむね肯定的な回答をいただいておりますが、その中でやや低いのは「子どもはソーシャルディスタンスを心がけている」「臨時休業期間中の家庭学習課題の内容や量は適切であった」の二項目です。ソーシャルディスタンスについては、どうしても子どもは大人より近くなりがちですが、この意識の習慣化は学校のみならず必要ですので、その都度啓発していきたいと思います。家庭学習課題については、この結果から保護者の皆さんの主旨をつかむことはできないのですが、少なくとも生徒自身は量が多いと感じていたようです。現在、文部科学省が発表したGIGAスクール構想(生徒一人一人が端末を持ち、十分に活用できる環境の実現を目指す)が前倒して整備され、今年度中には使えるようになります。そうすると、今後、何かあった時には紙面で配布するだけでなく、オンラインも織り交ぜたものになっていくことになりますので、学校としてもその準備を整えていきたいと思います。

最後に、自由記述は15名の方にご記入いただきました。約半数が「コロナ禍における保護者の思い・学校への要望・励まし」で、その他は「教科の学習・テストについて」「修学旅行の実施について」「トイレに関すること」「ご自身の子育て観」などのご意見・ご感想でした。これらについては、無記名アンケートという性格上、個々にお答えすることはできませんが、そのすべてを職員会議や学校運営協議会の場で原文のまま公表し、分析検討して今後の教育活動の向上に生かしてまいります。

